

特71

274



明治十五年十一月

第二號 小學用理化學器械目錄並使用畧說

東京教育博物館

當館總ニ各地諸學校等小學用理化學器械ヲ購求セント欲スル者ノ便ヲ謀リ其
 應シテ之ヲ紹介スヘキヲ公告セシニ爾後紹介ヲ請フモノ少カラズ是レ其價格ノ甚
 廉ナルニ依ルト雖モ尙許多ノ小學校中或ハ資金ニ限リアリテ之ヲ購求スル能サルノ
 歎ヲ懷クアリ是ニ於テ尙價格ノ廉ニシテ效用ノ劣ラサル器械ヲ撰テ其便ヲ謀ラント
 ナ然レドモ其品質並製作ヲ粗劣ナラシメズシテ價格ノミヲ減スルハ固ヨリ爲シ難キ
 コトタルヲ以テ當館ニ於テ撰擇ヲ遂ケ各地ニ於テ得易キ物品ハ其代用品及調製ノ法
 ヲ示シ或ハ稍ヤ高尚ノ理ヲ說示スル等輒々兒童ニ解シ得サル器械ノ二三及藥品ノ數
 量等ヲ減省シ更ニ必需ノ物品若干ヲ補ヒ製造人ヲシテ代價ヲ調査セシメシニ極メテ
 廉價ニシテ其用モ嚮ニ公告セシモノニ讓ルコト少シ因テ今器械及藥品ノ目次並器械
 用法要零ヲ左ニ記載シ以テ之ヲ購求セント欲スルモノニ紹介セントス其代價表及紹
 介手續書ハ當館ニ照會セハ附與スヘキヲ以テ此手續書ニ據テ更ニ紹介ヲ依頼セバ品
 質及製作ノ良否等ヲ試驗シテ送達ノ手續ヲ爲スベシ蓋シ理化學ノ如キ有形ノ學科ヲ
 教フルニ器械ノ切要ナル勿論ナルヲ以テ若シ廉價ニシテ之ヲ得ルノ途ヲ開カバ夫ノ
 器械ニ乏シキ小學校ヲシテ空シシ憾ヲ懷クコナカラシムルニ庶幾ラン

明治十五年十一月

東京教育博物館

第二號小學用物理器械目次

第一 豌豆及鉄葉皿 欠	第七 鉛線及陶皿 欠
本品ハ通常ノ陶製小皿ニ豌豆ヲ盛テ代用シ得ベシ	鉛線ハ釣竿ニ用フル尖頭アル 泛子ヲ糸ニ繫着シ之ニ錘 ヲ加ヘテ代用シ陶器ハ通常 ノ小皿ヲ用フベシ
第二 重點試驗版	第八 水平管
第三 天秤 分銅付	第九 水ノ壓力試驗器 欠
第四 水銀 二百四十匁	本品ハ壹斗樽又ハ口徑二三 寸許長壹尺五寸許ナル有底 ノ竹筒ヲ取リ其側面ノ上邊
第五 凝聚力試驗 玻璃版	
第六 物質ノ撓曲試驗 木棍及鉄錘 欠	
木棍ハ長一尺四五寸幅五六 分ノ木片ヲ以テシ鉄錘ハ綿 布ヲ以テ彈丸又ハ石ヲ包ミ	

第十七	護謄球	ルモ可ナリ	第十八	玻璃筒及護謄膜
第十六	玻璃罩		第十九	紙製筒 欠
第十五	排氣機		第二十	マクテバルク半球
第十四	木片 欠		第二十一	氣壓計用玻璃管、蓋及漏斗
第十三	黃銅圓柱及天秤皿		第二十二	吸土唧筒
第十二	黃銅錘		第二十三	震動線 欠
第十一	藍汁 欠	本品ハ何色ヲ問ハズ着色水ヲ代用シ得或ハ墨汁ヲ用フ	第二十四	齒輪 欠
第十	氷ノ上壓試驗器			
第九	藍汁 欠			

ヨリ下邊ニ直線ニ二三ノ穴ヲ穿テ之ニ代用スベシ

化學ヲ解シタル後ニ行フベキ試驗タルバ之ヲ省ク

長壹尺許ノ針金^{ハリガネ}ノ上端ニ鉛丸ヲ附着シ其下端ヲ木片ニ插入レ以テ之ニ代用シ得ベシ

第三十	銅鉄連續線	本品ノ理ハ稍ヤ高筒ニ屬スルヲ以テ之ヲ省ク	第三十一	三稜鏡
第二十九	驗溫器 欠		第三十二	蠟燭ノ映像ヲ示ス器
第二十八	沸騰點減度ヲ示ス器	各地ニ於テ容易ニ得ラルベキモノタルヲ以テ之ヲ省ク	第三十三	電氣振子
第二十七	膀胱 欠	是ハ厚紙ノ囊ヲ以テ代用シ得ベシ	第三十四	金箔驗電場
第二十六	玻璃燭臺筒ヲ省ク		第三十五	摩擦電氣機
第二十五	製氷器 欠		第三十六	發電玻璃棍
第二十四	十五號ノ排氣機ヲ以テ製氷		第三十七	發電棍 封蠟付

本品ノ理ハ稍ヤ高筒ニ屬スルヲ以テ之ヲ省ク

各地ニ於テ容易ニ得ラルベキモノタルヲ以テ之ヲ省ク

是ハ厚紙ノ囊ヲ以テ代用シ得ベシ

第卅八 絹布片 欠

普通ノ絹布ヲ以テ足レリト

ス

第卅九 毛布片

第四十 尖銳導電子 欠

是レハ稍ヤ高尙ノ理ニ屬ス

ルヲ以テ之ヲ省ク

第四一 蒺田燭

第四二 泄電叉

第四三 プレンゼン氏電池 (セル二箇)

第四四 水ノ分析器

第四五 蹄形鉄

第四六 鉄針及糸 欠

通常ノ針ノ大ナルモノヲ以

テ代用シ得ヘシ

第四七 エルステット氏試験器

第四八 銅線 二丈

第四九 硫酸 百二十匁

第五十 硝酸 百二十匁

以上ニ列記シタル器械ノ用法ハ士氏物理小學及學校用物理書ノ
卷末ニ記載アリト雖モ器械ノ使用ニ熟セザルモノハ爲メ更ニ其
要項ヲ左ニ擧シ試験者宜シク該書及本書小學化學器械用法ノ部

ヲ参照スベシ

- 一 排氣機ノ久シク使用セザルモノハ先ツ此器ノ唧筒ニ少許ノ胡麻油
或ハ椿油等ヲ注入シ把柄ノ運動ヲ滑澤ニシ然ル後之ヲ用フベシ玻
璃罩並マクデバルグ半球ヲ密着セシムル爲メ塗ルモノハ必ス豕脂
ニ限ラス代フルニ髪付油ヲ用フルモ可ナリトス又護謨球ハ少シク
之ニ空氣ヲ含マシメテ後系ヲ以テ其口ヲ結ブベシ
- 一 驗温器模式並沸騰點ノ減度ヲ示スニ用フル燬ハ直ニ烈火ニ上セ或
ハ忽チ之ヲ冷ストキハ破裂ノ患アレハ先ツ火酒燈ヲ以テ其球部ヲ
温メ漸々強熱スベシ又使用終ルノ後モ漸次ニ放冷スベシ
- 一 銅鉄連續線ニ用フヘキ鱗ナキ片ハ之ヲ三脚臺ニ上セ火酒燈ヲ以テ
熱スルノ後双手ヲ以テ其兩端ニ觸ルレバ導熱ノ遲速ヲ驗シ得ベシ
- 一 第七十一章ノ試験ニハ第三十二號ノ凸透光鏡ヲ用フベシ
- 一 摩擦電氣機發電棍及絹毛布ハ皆試験ヲ行フニ先チ温メサルヲ得ス

ト雖モ夏季ノ如ク濕氣多キトキハ往々發電セサルコトアリ故ニ此
 試驗ハ冬季空氣ノ乾燥ナルトキニ行フヲ可トス且摩擦電氣機ノ玻
 璃版ヲ壓着シタル一對或ハ二對ノ摩擦子ニ塗抹シタルアマールガムノ脫
 去シタルトキハ亦發電セザルコトアリ此場合ニ於テハ摩擦子ヲ取
 リ放チテ小刀ノ如キモノヲ以テ其面上ニ更ニ又アマールガムヲ塗抹
 シアマルガムノ軟少附着セサルトキハ先ヅ極メテ再ヒ之ヲ裝置ス
 ベシ

一此物理器械ニ屬スルモノハ「ブレンセン氏」ノ電池ニシテ「グローブ氏」ノ
 電池ト聊カ裝置ヲ異ニセリ而シテ之ヲ用フルノ法ハ先ツ稀硫酸ヲ
 陶製ノ外筒ニ注入シテ其半許ニ至ラシメ次ニ素燒ノ圓筒ニ骸炭ヲ
 安置シテ後玻璃漏斗ヲ以テ強硝酸ヲ盛リ然ル後又之ヲ陶製ノ外筒
 ニ入レ最後ニ亞鉛筒ヲ素燒ノ外圍ニ納メ以テ其用ニ具フベシ若シ
 硝酸ヲ注入スルノ際之ヲシテ電池ニ連接シタル金屬及稀硫酸中ニ

飛散セシムルトキハ忽チ金屬及亞鉛筒ヲ腐蝕スルモノナレハ宜シ
 ヲ注意スベシ

一稀硫酸ヲ作ルン法ハ硫酸一ト水十トノ比例ニシテ先ツ水ヲ陶器或
 ハ玻璃器ニ盛リ硫酸ヲ點滴シ其際絶エズ玻璃棒ヲ以テ能ク之ヲ攪
 和シ放冷セシムルノ後之ヲ電池ニ移スベシ否ラサルトキハ烈シキ
 熱ヲ生シ爲メニ器物ヲ破碎スルノ虞アリ且總テ酸類ハ皮膚或ハ衣
 服等ヲ汚ストキハ忽チ之ヲ腐蝕スレハ取扱ノ際最モ注意スベシ

一電池ノ使用終ルトキハ別ニ二箇ノ玻璃壘或ハ陶壘ヲ備ヘ一ハ稀硫
 酸ヲ入レ一ハ硝酸ヲ入レテ密封シ他日ノ使用ニ供シ得ルト雖モ電
 池ヲ用フルコト久シクシテハ兩酸共ニ其効力ヲ減スルニ至ル然ルト
 キハ新ニ酸ノ少許ヲ注加シテ起電スルコトアリ然レモ全ク其効力
 ヲ失フニ至レハ其酸ヲ全廢シテ更ニ新酸ヲ用フベシ且骸炭及素燒
 ノ圓筒ハ數日間水中ニ浸シ置クヲ可トス亞鉛ハ特リ洗淨ノ後チ能

シ乾燥セシムベシ

一稀硫酸ヲ注入シタル電池ノ外筒ニ亞鉛ヲ入レタルキ甚シク氣泡ヲ發スルコトアリ是ノ亞鉛筒ノ「アマルガム」ノ盡キタル徴ナレハ新ニ之ヲ塗抹セサルヲ得ス其法ハ鑑ノ類ヲ以テ亞鉛筒ノ内外ヲ磨テ光澤ヲ生シ次ニ像メ水銀ヲ入レタル平皿ニ上セ稀硫酸ヲ以テ之ヲ潤シ布片ニテ水銀ヲ塗抹スルコト數回ニシテ其内外ニ銀色ヲ發スルニ至ラシムヘシ但シ一回用ヒタル水銀ハ再ヒ塗抹ニ供スルモ妨ナシト雖モ酸氣ヲ帶アルヲ以テ他ノ水銀ト混ス可カラズ

一水ノ分析器ニ用フル水ハ之ニ硫酸數滴ヲ注キ入レ玻璃ノ双管ニモ此水ヲ滿スベシ

一凡ソ器械ハ成ベク塵埃ヲ防クヲ可トス就中排氣機摩擦電氣機ノ如キハ殊ニ然リトス故ニ器械ハ常ニ函中ニ貯ヘ置クカ又ハ紙或ハ綿布ヲ以テ之ヲ蓋フベシ且嚴寒ノ土地ニ於テハ玻璃類ノ自然ニ破碎

スルノ患アレバ此類ハ温暖ナル室ニ貯フルヲ可トス

一凡ソ器械ハ使用ノ後之ヲ淨拭シテ清潔ニ保存スベシ若シ之ニ鏽蝕ヲ生スルトキハ試驗ノ際十分ニ其功ヲ奏セザルコト少カラス殊ニ電氣ニ用フル銅線及蹄形鉄ハ最モ注意セザル可カラズ

○

第二號小學用化學器械及藥品目次

○器械之部

- | | | | | |
|----|----------|--------|----|--------|
| 第一 | 銅線並 | 蠟燭 | 第六 | 鐵製三脚臺 |
| 第二 | 玻璃管 | 蠟燭付 | 第七 | 火酒燈 |
| 第三 | U形玻璃管 | | 第八 | 火酒 全上用 |
| 第四 | 小形天秤 | 玻璃皿 二個 | 第九 | 玻璃罩 欠 |
| 第五 | 玻璃壺 凡三勺入 | 銅 一冊 | | |

廣口壺ヲ轉倒ノ代用スヘシ

第十 水ノ分析器 欠

第十一 アンゼン氏電池 欠

以上二品ハ小學物理器械ニ
モ屬シ且小學化學中電池ヲ
使用スルノ試驗ハ一回タル
ヲ以テ之ヲ省シ

第十二 玻璃製乳鉢及乳棒

第十三 玻璃製集氣筒 欠

太キ試驗管ヲ以テ代用スヘ

第十四 水素發生用漏斗管 玻璃燻欠

廣口燻ニ漏斗管ト曲管トヲ
裝置シテ代用シ且炭酸氣發

生等ニモ流用スヘシ

第十五 水槽 蜂巢狀ノ架付

第十六 廣口燻 四箇

第十七 白磁製小皿 欠

普通ノ平皿ヲ用フヘシ

第十八 玻璃製洗淨燻

第十九 乾燥管

第二十 U形乾燥管

第二十一 球管

第二十二 共口レトルト 欠

第二十三 木栓レトルト

第二十四 レトルト受器

第二十五 レトルト臺 三環及試驗管挾付

第廿六 蒸發皿 凡二合五勺入欠

第廿七 全上 凡五勺入欠

以上二品ハ堅質ナル陶製ノ

燈皿ヲ以テ代用シ得ヘシ

第廿八 玻璃製漏斗 壹箇欠

第廿九 濾紙 百枚

第三十 蹄形磁鐵 全

第卅一 小刀 欠

通常ノ小刀ヲ以テ代用ス

第卅二 鐵網

第卅三 砂皿

第卅四 試驗管 十二本

第卅五 試驗管挾

第卅六 試驗管臺

第卅七 吹管

第卅八 三角鏟

第卅九 九鏟

第四十 玻璃管 二十本

第四十一 木栓 十二箇

○藥品之部

硫酸 二百四十匁

硝酸 二百二十匁

鹽酸 二百四十匁

石灰水 欠

石灰ヲ以テ之ヲ作ルヘシ	攪化カルシウム	六十匁
アムモニア氷	石灰石	百二十匁
苛性ポッタース液	大理石 欠	
炭酸ソヂウム液	石灰石ヲ用フヘシ	
クローム酸ポッタシウム液	石灰 欠	
フエロシヤンポッタシウム液	石灰石ヲ以テ製ス其法ハ後ニ詳ナリ	
硝酸銀液	銲ノ鑑粉	三十匁
リトマス液 欠	石膏	全
試験紙ヲ以テ代用スヘシ	粘土 欠	
インギゴ液 欠	漂白粉	三十匁
燕 ^{ペニ} 脂或ハ緋染粉若クハ早染粉ノ如キ	酸化マンガン	百二十匁
軟ク水ニ溶解スヘキモノヲ以テ代用	曹達 結晶	三十匁
スヘシ	明礬	全

硫黄竿 欠	苛性曹達 塊	十五匁
硫黄華ヲ以テ代用スヘシ	無水炭酸ソヂウム	七匁五分
硫黄華	黄色燐	四匁
硝石	赤色燐	二匁
亞鉛片	酸化錫	四匁
銅屑	酸化水銀	全
酸化銅	ポッタシウム	一匁
硫酸銅	ソヂウム	全
アノチモニ	金箔	三枚
水銀	マンチシニウム線	一尺五寸
醋酸鉛	リトマス試験紙	三綴
草麻子油 欠	木炭 欠	
通常ノ水油ヲ以テ代用スヘシ	木理ノ緻密ナル木炭ヲ用フヘシ	

以上ノ器械並ニ藥品ハ試驗者之ヲ使用スルノ際能ク意ヲ注クト
 キハ必スシモ多キヲ要セサルヲ以テ其數量ヲ減シ或ハ全ク之ヲ
 省キ代用品ヲ示シタルモノ少カラヌ又化學標品ノ如キハ其用少
 キヲ以テ之ヲ省ク
 右ニ列記シタル器械類ノ用法ハ小學化學書ノ卷末ニ記載アリト
 雖モ尙其用法ノ要項ヲ左ニ擧ケ初學ノ輩ニ便ス宜シク該書及前
 記ノ物理學器械用法ノ部ヲ參照スヘシ
 一U形管及ヒ乾燥管ハ常ニ注意シテ清淨ニシ以テ乾燥セシムヘシ而
 ノ之ニ燥化カルシユム或ハ苛性曹達等ヲ容ルヽノ後ハ直ニ其兩端
 ヲ閉テ外氣ノ浸入ヲ防クベシ否ラサレバ氣中ノ溫氣或ハ炭酸氣ヲ
 吸収シ試驗ヲノ不十分ナラシムルコトアリ
 一天秤ノ使用法ハ其左皿ニ物品ヲ載セ而シ其右皿ニ錘ヲ置クヲ常ト
 ス但シ藥品ヲ量ルニ其皿金屬ナルキハ腐蝕シ易キヲ以テ玻璃皿ヲ

用フベシ且使用シタル後ハ必能ク淨拭シ鏽ヲ生セシムル勿レ
 一火酒燈ニ火酒ヲ容ルヽニ之ヲシテ充滿セシムルハ危險ナルヲ以必
 此器ノ八分ニ充タシテ點火スベシ又其使用ノ後ハ直ニ蓋ヲナシ火
 酒ヲノ蒸發セザラシムベシ且燈心ノ欠乏セシトキハ綿ヲ輕捻シテ
 紙^{コウ}擦^リノ如クナシ其五六本ヲ併セ用フベシ又火氣ノ玻璃燻等ニ達セ
 サルトキハ火酒燈ヲ木片ノ臺ニ載セ高クスベシ
 一乳鉢ニテ藥品ヲ細末ニスルニ方テ乳棒ヲ以テ強ク打碎スベカラズ
 必之ヲ回轉シテ磨碎スベシ
 一水槽ハ之ニ七八分ノ水ヲ盛り又廣口燻ニ水ヲ滿テ 此燻ニ水ヲ充ル
 中ニ少許ノ空氣モナ 蜂巢狀ノ架上ニ倒置シ其架下ニ玻璃管ヲ導キ
 燻中ニ聚氣スベシ既ニシテ瓦斯殆ント燻中ニ滿チ燻口僅ニ水アル
 ニ至レハ之ヲ倒ニシタル儘水中ニ於テ平皿ニ移シ更ニ他ノ燻ヲ架
 上ニ置クベシ

一 球管ニ藥品等ヲ入レタル後ハ必之ヲ拭テ清淨ニスベシ而シテ之ヲ熱スルニハ先ツ微シク全体ヲ温メテ後チ漸々強熱スベシ又使用終ルノ際モ漸々火力ヲ減シ急ニ放冷スルヲ勿レ其他部テ玻璃壘ヲ熱シ或ハ之ヲ冷却スルモ亦同様ナリ否ラザレバ之ヲ破壊スルノ患アリ且玻璃器ノ使用終リ器内不潔ナルトキ之ヲ洗フニハ水ニ穀殼ヲ混入スルヲ佳トス然ルモ尙清淨ナラザルトキハ鹽酸少許ヲ注グベシ

二 レトルトハ其木栓ヲ密ニシ且内外共ニ清潔ナルヲ要ス而シテ火ニ上セル前ニハ必底部ヲ拭ヒ水氣ヲ去リテ鉄網ノ上ニ置キ熱スベシ使用中ハ必冷水等ヲシテ之ニ觸レシムル勿レ又之ヲ熱スルニ其目的其中ノモノヲシテ蒸溜セシムルニ在ルトキハ烈シク沸騰セシム可カラズ

一 蒸發皿ハ常ニ清淨ナルヲ要ス之ヲ使用スルニハ亦其底ヲ拭ヒ濕氣

ヲ去リ直ニ火ニ上セズ鉄網ノ上ニテ熱スベシ且使用ノ後皿内不潔ナルキハ酸類或ハアルカリ液小許ヲ注キ清淨ニスベシ且液体ヲ蒸發或ハ蒸溜シテ久シク火氣ヲ要スルキハ砂皿即鉄盆ニ砂ヲ盛り之ニレトルト蒸發皿等ヲ上セテ炭火ヲ用ヒ火酒ノ徒費ヲ避クベシ

一 第三十四試ノ代品ハ堅質ニシテ厚カラザル磁製ノ神酒壘或ハ酒壘ヲ取リ玻璃管ヲ木栓ニ穿貫シテ壘口ニ挿シ之ヲシテ能ク密閉ナラシメテ鉄網又ハ砂皿ニ上セ漸次ニ熾熱スベシ

一 細キ玻璃管ヲ曲ケント欲セハ一端ヲ支ヘテ其曲クベキ部ヲ火酒燈上ニ熱シテ廻轉シ其殆ント硬質ヲ失フニ際シテ之ヲ靜持スレバ他ノ一端ハ自ラ熱所ヨリ低下ス是ニ於テ其將ニ適度ニ至ラントスルニ先チ徐々火ノ上ヲ離下スベシ決シテ両端ヲ支ヘカヲ以テ彎曲スルコト勿レ又其管端ヲ延長セント欲セバ其端ヲ火酒燈上ニ赤熱シ之ニ他ノ玻璃管ヲ粘附シテ引キ延スベシ又管ヲ截ラント欲セバ三角

鑪ヲ以テ横線ヲ劃シ両手ヲ以テ輕ク折ルベシ
 一木栓ニ孔ヲ穿タント欲セバ先ツ錐ノ類ヲ以テ眞直ニ孔ヲ穿テ次ニ
 丸鑪ニテ其大サヲ適宜ニスベシ又木栓ノ大ニシテ鑪口ニ挿入シ難
 キトキハ鑪ニテ鑪リ去ルカ或ハ之ヲ木板等ノ間ニ置テ壓轉シ若ク
 ハ砥石ニテ礪キ減ラスベシ且試験ノ際若シ木栓ヨリ瓦斯ノ漏出ス
 ルコトアルトキハ鑪付油ヲ塗抹シ之ヲ防グベシ
 一酸類 硫酸ヲ稀釋ニスルノ法ハ既ニ物理器械用法ノ部ニ擧ケタル
 ヲ以テ茲ニ贅セス硝酸及鹽酸ハ硫酸ト異リ隨意ノ量ヲ以テ水ト混
 和スベシ總テ酸類及苛性「ポッター」ハ腐蝕性强キカ故ニ其取扱ニ
 注意セサル可カラズ若シ誤テ皮膚衣服等ヲ汚點スルトキハ其局所
 ヲ變色或ハ腐蝕スルヲ以テ酸類ニ觸レタルキハ直ニ「アムモニア水」
 苛性「ポッター」ニハ稀酸類ヲ注キ其腐蝕ヲ防グベシ
 一左ノ藥品ハ炭酸氣及ヒ水氣ヲ吸入シ易ク爲メニ供用シ難キモノナ

レバ常ニ密閉シテ外氣ヲ防グベシ

石灰水 苛性「ポッター」 鹽化カルシウム 石灰 醋酸鉛

一石灰水ハ新製ノモノヲ以テ良トス故ニ左ニ記載セル法ニヨリ石灰
 ヲ作り之ニ水ヲ加ヘ發熱崩壞セル後ニ更ニ多量ノ水ヲ加ヘ時々振
 蕩シテ放置シ其上清ヲ用フベシ
 一苛性曹達炭酸曹達等ノ液ヲ入ルノ器物ノ栓玻璃ナルトキハ多ク日
 ヲ經ル後自ラ固着シテ離レサルコトアリ故ニ時々其栓ヲ動カシ試ム
 ベシ又此固着ヲ防グニハ生蠟ヲ其栓ニ塗抹スルヲ良トス
 一硝酸銀ハ日光ニ感シ或ハ有機物ニ觸レ還元スルコトアリ故ニ黑色
 紙ヲ以テ鑪ヲ包ミ又塵埃ノ入ラサル様注意スベシ
 一鹽化カルシウムノ濕潤シテ供用シ難キ時ハ砂皿或ハ鐵葉版ノ上ニ
 置キ炭火ニ上セ能ク攪拌シテ水分ノ蒸發ヲ待テ再ヒ鑪中ニ入レテ
 密封スベシ

一石灰モ亦濕氣ヲ含ミ易クシテ純品ヲ貯フルコト難シ故ニ試験者ハ
 之ヲ要スルノ際ニ燻熱セル炭火ノ中ニ石灰石ノ小塊數箇ヲ投シ暫
 時燻熱シテ採出シ冷後試ニ其一塊ニ少許ノ水ヲ注キ發熱壞崩スル
 モノナレハ良品タルヲ以テ其使用ニ供スルヲ得ヘシ且其使用ニ餘
 リタルモノハ更ニ燻中ニ入レ極メテ緊密ニ封シ置クヘシ
 一總テ藥品ハ有毒ノモノ多キガ故ニ取扱ノ際宜ク注意スベシ殊ニ
 酸類及苛性アルカリ類其他フエロシヤンポッタシユム、石灰、漂白粉、
 酸化銅、硫酸銅、アンチモニー、水銀、醋酸鉛、黃色磷、赤色磷、酸化水銀、
 マジニウム、ソヂニウム等ハ最モ有毒或ハ劇烈ノ性アルヲ以テ決シテ之
 ヲ口舌ニ觸ル、コト勿レ

細物集 東京

類屬冊函

廿一
廿七

二冊の上



Handwritten text on a small white label, possibly a name or identifier, located on the left edge of the document.

特 71

274

小学用理化学器械
目錄並使用略說

国立国会図書館

052827-000-2

特71-274

小学用理化学器械目錄並使用略說 第2号

東京教育博物館

M15

CAA-0088

